



APA PRESENTS KING'S & QUEEN'Sプロボウラーズトーナメント

11月5～7日
サンスクエアボウル／東京ポートボウル

永野すばる

“確変”予感のV4

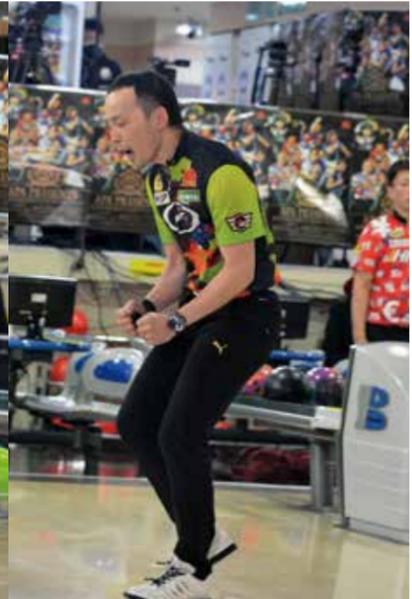
姫路麗

“女王復権”の粘カV23

コロナ禍に APAグループの特別協賛を得て実現した新設大会「KING'S & QUEEN'Sプロトーナメント」が11月5～7日の3日間、男子128名、女子119名のプロが参加して開催され(会場は男子予選・準決勝が東京ポートボウル、それ以外は都内北区のサンスクエアボウル)、男子は永野すばる(40期・相模原パークレーンズ)、女子は姫路麗(33期・フタバボウル)がともに今季初優勝。レギュラーツアー再開後、勢いを増して迫り来る若い力に、歴戦のキャリアを誇る2人が待ったをかけた。(主催：(公社)日本プロボウリング協会)



▲土壇場、②⑩スプリットを鮮やかにカバーして今季初勝利を挙げた姫路



▲TV決勝で一変した永野。豪快なストライククラッシュで3位から勝ち上がった

競技は男女とも予選12G・準決勝4Gを経て上位各8名を決勝ラウンドロビン(=以下RR)ポジションマッチを含む総当たり8G)に選出。その結果、男子は1位・藤井信人(52期)、2位・谷合貴志(52期)、3位・永野、女子は1位・松永裕美(37期)、2位・姫路、3位・大嶋有香(49期)の各3名がTV決勝進出を決めた。

男子TV決勝

3位決定戦は、準決勝6位から会場が代わったRRで調子を上げ、2位進出を決めた谷合と、逆に準決勝1位からRRで調子を崩し、辛うじて3位に踏みとどまった永野との対戦。1フレ③④⑥スプリットオープン



▲「決勝の会場は大きくライン取りする自分に合っていた。負けて悔しいけれど、結果的にはやり切ったと思う」と準V惜敗の藤井

永野に対し、谷合はダブルスタート。RRでの勢いからも、傍目には谷合が断然有利と映ったが、内情は真逆だった。「練習ボールの後半に手前の枯れを感じて、迷ったままゲームに入ってしまった」谷合と、同じ練習ボール時に「思いのほかオイルを感じてアングルが取れたので、狙いどころを絞っていた」という永野。その差は早々に顕在化し、3フレから4連発、8フレで②⑧⑩と再び割ったものの、9フレからオールウェーを決めた永野が「最後までラインを読み切れなかった」谷合を221:190のスコアで退けた。

優勝決定戦は、男子プロらしい豪快なストライクの応酬と

なった。スタートから8連発を決め、ゲームをまたいで12連発の“パーフェクト”を達成した永野に対し、同じくストライクスタートの藤井は2フレ⑩ピンタップ(スペア)を挟んでの7連発でピタリ追走し、勝負の行方は10フレに持ち越された。取りに行くと、ぶっつけ本番で投げたのがうまくハマりました。レーンも、左右のコンディションにあまり差を感じなくて、板目3枚くらいの調整で対処できた。あとはもう気合だけでしたね。ラウンドロビンで自信のないボウリングを続けていたので、最後まではいちちゃんと投げよう、と(笑)。

優勝決定戦はどっちが勝ってもおかしくない勝負だったと思う。最後はツキですよね。これまではすべてトップシードでの優勝。下から勝ち上がって優勝したのは初めてなので、本当にうれしいです。(優勝ボール：STORMアクシオムツアー)

優勝決定戦はどっちが勝ってもおかしくない勝負だったと思う。最後はツキですよね。これまではすべてトップシードでの優勝。下から勝ち上がって優勝したのは初めてなので、本当にうれしいです。(優勝ボール：STORMアクシオムツアー)

女子TV決勝

女子の部は、予選からローゲームが頻発する予想外のタフな展開となり、準決勝終了時点でプラススコアを保っていたのはわずか3名のみ。RR進出の8名中6名がプロキャリア15年以上のベテラン勢という、ツアー再開後の4戦とは打って変わって我慢大会の様相を呈した。

3位決定戦は、RRでともに6勝の勝利ポイントを稼ぎ、7位→3位、4位→2位とそれぞれ順位を上げた大嶋と姫路のマッチアップ。結果は、ストライク数で後塵を拝しながらも着実にスペアを重ねてノーミスで終えた姫路が、3フレ②④⑦をカバーし切れず1ミスの大嶋を195:192で3ピン差凌ぎ、ライバル・松永の待つ優勝決定戦に駒を進めた。

松永には8位進出のRRで最多の7勝を挙げ、一気にトップシードまで躍り出た勢いがあり、一方の姫路は今季2位、2位、9位、6位と勝ち切れず、迷い道にハマり込んだ感もある。両者が優勝を懸けて対峙するのは昨年のジャパンオープン以来だったが、そのとき



▲「ラウンドロビンに残ってトップシードを取れたのが奇跡と松永。タフなレーンでさすがの底力を見せた

る粘り勝ちだった。

優勝者コメント

今回は予選から150、160が簡単に出てしまう難しいレーンで、自信を失うようなプレー続きでした。やっと攻略の糸口が見えたのが最後の3ゲーム。8枚目をクロス気味に、でも曲がらないように真っすぐ縦に抜く感じで投げる。「自分にはそれ以外方法はない」と、今回初めて使った曲がらないボールで投げ続けました。

テレビ決勝はムチャクチャ緊張しました。3位決定戦も、大嶋さんが10フレでダボっていたら負けていた。今年2回準優勝に終わって、「また負けるかも」という恐怖感で純粋な挑戦者になれない気持ちと、レーンが分からないのに、相手が自分にとって特別な存在である松永さんというプレッシャーで、ずっとドキドキしていました。優勝できたことがまだ信じられません。(優勝ボール：900GLOBALボルト)

勝利した松永が姫路を返り討ちにする可能性も少なくなかった。

だが、この一戦も我慢比べの接戦となり、お互い9フレまで1ミスながら姫路が1マークリードして10フレに。先投げの松永は1投目②⑧を残して敗色濃厚となったが、姫路は「緊張してうまく足が運ばず、ボールが太ももをかすった」と、一度投球を中断。リトライの1投目は②⑩と割れ、インザダークを難なくカバーした松永に逆転優勝の余地を残してしまう。

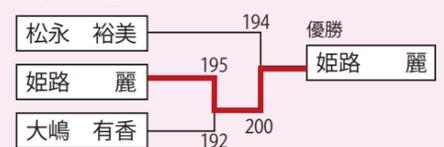
しかし、姫路は見事に②ピンを飛ばして⑩ピンを払い、万感のガッツポーズ！ 固唾を呑んで見守っていた大会関係者の大きなどよめきと拍手が、劇的な幕切れを彩った。

姫路はこれで通算23勝目。“女王復権”を印象づける

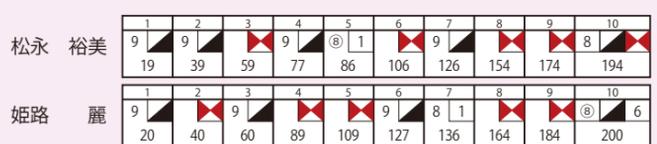


▲試合後の表彰式ではAPAホテルの元谷美美子社長(左から4人目)がJPBA谷口健会長とともにプレゼンターを務めた

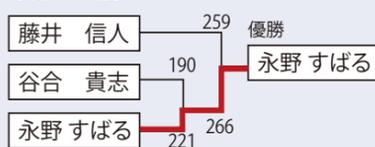
●女子決勝ステップラダー



●優勝決定戦



●男子決勝ステップラダー



優勝者コメント

TV決勝では、今大会で一度も使っていないボールを直前に

●優勝決定戦

